

# Cabal Users Guide 仮訳

CabalはHaskellの標準パッケージシステムである。Cabalによって、Haskellのソフトウェアを設定したり、ビルドしたり、インストールすることができ、その上、他のユーザーや開発者に配布することもできる。

Cabalパッケージという仕組みの上で、`cabal` という名前のコマンドラインツールが作動する。`cabal` によって、すでに存在しているパッケージのインストールができる他、独自のパッケージの開発も行うことができる。ローカルなパッケージを使うこともできるし、オンラインのパッケージアーカイブからもってきたパッケージを、依存するパッケージをも含めて自動的にインストールすることもできる。デフォルトでは、`Hackage`という、数千のライブラリやアプリケーションをCabalパッケージ形式で掲載しているHaskellの標準パッケージアーカイブを使うように設定されている。

## 1. はじめに

CabalはHaskellソフトウェアのパッケージシステムである。

パッケージシステムのポイントは、ソフトウェアの開発者やユーザーが簡単にソフトウェアをかんたんにはイヒしたり使用したり再利用したりすることができるようにすることである。

パッケージシステムは、ユーザーの手にソフトウェアを届けるのを簡単にする。

同様に重要なのは、ソフトウェア開発者にとっては、他の開発者が作成したソフトウェア部品を再利用できるようにすることである。

...

### 1.1 パッケージを扱う道具

`cabal`という名前のコマンドラインツールは、ユーザーや開発者がCabalパッケージをビルドしたりインストールしたりできるようにする。

このツールは、ローカルなパッケージにも使えるし、ネットワーク越しにリモートでアクセスするパッケージも扱うことができる。

自動的にCabalパッケージや、そのパッケージが依存している他のCabalパッケージををインストールすることができる。

開発者は、このツールをローカルディレクトリに入れるパッケージで使うことができる。例えば、

```
$ cd foo/  
$ cabal install
```

ローカルなディレクトリにあるパッケージを扱う際は,